

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471901411
法人名	社会福祉法人 心の会
事業所名	さくらの家二番館
訪問調査日	平成19年11月30日
評価確定日	平成20年1月18日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 12月 10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1471901411号
法人名	社会福祉法人 心の会
事業所名	さくらの家二番館
所在地	横須賀市小矢部4-15-8 (電話) 046-850-3301

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成10年11月30日	評価確定日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 5日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	25人	常勤 5人	非常勤 19人	常勤換算 7.9人

### (2) 建物概要

建物構造	( 鉄筋コンクリート )造り
	3 階建ての (2)階 ~ (3)階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 150,000 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 650,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (11月5日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	63 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三輪医院、衣笠病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ボランティアから出発した社会福祉法人として「地域との共生」を前面に出した運営がされています。運営推進会議は、同法人で運営する3つのホーム(さくらの家一番館、二番館、三番館)と一緒に開催し、困難事例なども含めて検討、実施されています。月に一度発行される家族だよりでは、「生活状況のお知らせ」として入居者ごとに、日々の活動記録 体重、医療面のお知らせなど写真を添えて発信されており好評を得ています。医師、歯科医師の往診(1回/月)があり、24時間の連携対応となっています。介護マニュアルや日々の介護記録が充実しており、ポットラック会議(1人1品ずつ料理や飲み物を持ち寄り 定例会議)を毎年1月に実施されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との関わりは、グループホーム連絡協議会や、市町村で進めている認知症サポーターの推進などに貢献し役割を担っています。また認知症を取り上げた映画鑑賞会など、公共性の高い役割を積極的に務めています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は事前に情報を共有し、外部評価および自己評価の重要性とその効果を理解している。職員は改善意識が高く、自己評価することで改善の動機づけになっています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>施設紹介、地域との協働、地域密着における取り組みを課題としており、他のホームとの相互研修や情報交流、自治会を主とした地域交流の実績ができています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見は「ご意見箱」の設置をしているが、実際には日常の面会時に入手することが多い。家族からは現状の満足度が高いものとなっています。意見収集をさらに反映するためにも定期的なアンケートの実施と分析が望まれます。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会活動では、「清掃活動」や地域参加の「避難訓練」を実施しています。地域には同法人で運営する他の福祉事業が複数あり、地域での福祉全般に関わる相談や緊急対応などに対応しています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との共生」を理念に反映し、地域の一員として生活面でも溶け込んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの玄関ホールの壁面に理念を掲示し、職員は理念を記録したカードを携帯している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し清掃活動などの行事に参加している。又、ホームの避難訓練では炊き出しなど地域の人も合同で参加して協力し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は制度の意義を職員と共有し、サービスの質の客観的な評価の機会を通して気づきを得て、日常の業務に反映している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さくらの家一番館、二番館、三番館が一緒に開催している。互いの事例検討や情報交換をし、地域に密着したサービスを発信している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の運営部長は「横須賀市グループホーム連絡協議会」を立ち上げ、現在では同顧問をしている。4月からは同市における認知症サポーター500人を目指し、長寿社会課との連携をとりながら推進している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者家族に日頃の生活ぶりをお届けする「生活状況のお知らせ」を月に1回発行している。健康状態をはじめ、日々の様子、預かり金出納管理と合わせて家族に連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関を入ったところにご家族からの意見を得るための「ご意見簿」を設置している。面会時などに聞いた意見はミーティングに反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に際しては利用者への配慮をし、最小限に抑える努力をしている。また、管理者に対して職員は、意見を言いやすく、相談にもものってもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外内を問わず研修の機会が多い。パート職員にも年1回以上の研修機会があり、モチベーションや、スキルの向上につながっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市内の44のグループホームと、月に1回の相互交流や研修をとおして研鑽を高めており、「横須賀認知症研究会」の勉強会への参加もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>生活空間には、いたる所に手作りの品が溢れており、音楽の選曲もお年寄りが和める内容になっている。職員は目立ちすぎることなく、寄り添いながら支援しており、入居者との馴染みの関係づくりができています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>さりげない動きでプライバシーに配慮し、食事介助や入居者との会話でも一体感や相互信頼が感じられる。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者本人の嗜好を参考にし、家族とも相談しながら、思いや意向の把握に努めている。職員同士、情報の共有に努め、本人の意思を尊重し支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎月1回、担当者会議を行い、本人がより良く暮らすにはどうしたらよいかを検討している。本人、家族ともよく話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3ヶ月に1度の見直しだが、状況、必要に応じて計画を見直し作成している。本人、家族にその都度状況を伝え、話し合いの場を設けている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接しあう同一法人の施設の行事や活動に参加出来るような柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけの病院で診療を受けている。また往診の体制も整っている。薬の変更があった場合には、家族にすぐに連絡をとるようにしている。また法人の産業医からも適切な医療が受けられるようになっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期について、医師、家族等と話し合い方針を共有している。終末期についての研修、勉強会も開き、家族へ報告している。又、家族会において終末期をどのようにしていくか話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損ねるような言葉掛け、対応はしないよう努めている。個人の記録等の保管も厳重になされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、自己決定も出来るよう、一人ひとりのペースを大切にしながら希望に沿うような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむため、台所とリビングが近い距離にあるので利用者と職員と一緒に参加している。後片付けも食器拭きを一緒にするなど、家庭的な雰囲気となっている。食事の希望を聞いて、月2回のフリーメニュー、また外食支援に反映している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴だが、本人の希望があれば随時入浴は可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの得意な分野を活かして生活できるようなケアに取り組んでいる。散歩、音楽鑑賞等、日々のストレスをためないよう気晴らしができるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせ、散歩に出たり、買い物ツアーと称するドライブなど希望に沿った支援をしている。希望により、外食をしたり、併設施設の喫茶室にお茶を飲みに行くことも出来る。また、近場への日帰り旅行も実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を職員は理解し、日中、玄関はいつもオープンである。居室においては鍵の設置はない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防災訓練、また定期的に避難訓練を実施している。訓練は消防署の協力を得て、近隣の方も参加して行われる。災害時には、地域の協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士が栄養計算したメニューが提供されている。水分補給はおやつ時、毎食時、入浴後、本人の希望によりなされている。一人ひとりの体調や状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には草花、廊下には手作りの手芸作品や行事の写真など飾られている。生活感、季節感もあり、暖かな家庭的な雰囲気を作り、居心地のよい空間となっている。日中ほとんどの時間を過ごすリビングは台所と接近しているため、危険が無い様にレイアウトや職員の配慮に工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には椅子、テーブル、ベッド、クッションなど本人が使い慣れたものをそれぞれ持ち込んでいる。居心地よく暮らせるよう家族の写真、花なども飾られ工夫されている。また、全ての居室に洗面の設備があり便利である。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人心の会グループホームさくらの家二番館
(ユニット名)	二番館2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市小矢部4 - 15 - 8
記入者名 (管理者)	畠 美佐子
記入日	平成 19 年 10 月 22 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員が、理念カードを携帯している。又、ホームの運営理念を重要事項説明書に明記している。今後もホームの理念を基に地域密着型サービスに取り組んでいきたい。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者は運営理念をミーティングや日々のケアの中で職員に伝えている。理念カードを携帯している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	玄関の壁など、ホーム内の数箇所に運営理念を掲示している。また、広報誌を定期的に発行し、地域、施設、ボランティア団体、学校などに配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の人達が気軽にきて頂ける様に行事への参加を呼びかけている。季節の行事では、桜餅、柏餅を配るなど、近隣の方と交流を図っている。又、中、高校生の生徒が体験学習にきている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に入っており、自治会の清掃活動に参加している。ホームで行っている避難訓練などには、地域の人達にも参加してもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>デイサービスとグループホーム両方の行事などを、会報等で近隣にお知らせして、参加していただいている。又、浴室、喫茶室を開放してコミュニケーションの場にもなっている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、職員へ自己評価の意義を説明し、職員全員で、自己評価を行い、外部評価を受ける事によって、普段気が付かない事や、現状の理解の把握に努め、改善に繋げるようにしている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、それぞれの事業所を訪問し、そこで職員と行政、包括、民生委員、グループホーム間で情報交換や、事例検討など現地研修を行い、一般の人にグループホームを知って頂いたり、サービスの向上にいかしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>当グループホームの運営部長は、横須賀市グループホームの連絡協議会の顧問をしており、一番館の管理者は、役員をしているので、横須賀市長寿社会課との関係はとれている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加し、フローア会議の中で、研修報告をして、資料配布を義務付けている。また、行政書司を招き、権利擁護や成年後見制度の学習をして、知識の共有・向上に努めている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は採用時に、入居に対する虐待を行わないように誓約している。研修に参加した職員は、報告を義務付けられており、その報告に基づいて、会議の場で検討を行っている。法人本部からの通達などでも虐待防止に努めている。又、目に見えない所での虐待などが、起きていないか気配りしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書などを読み上げ質問に対し適確な返答をし、納得して頂いている。解約する際も同じである。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談苦情窓口は、重要事項説明書に明示している。玄関ホールの入り口「苦情受付窓口のお知らせ」が掲示されている。その他、家族会では、家族会代表が、「何かある時はご相談下さい」と呼びかけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「生活状況のお知らせ」を月1回家族に送付して、日々の様子、活動内容、健康状態を知らせている。預かり金は出納帳にて管理しており、毎月お知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付書を整備している。ホーム内で解決できるものについては速やかに対応している。いつでも気軽に意見を言いやすくなっている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常のケアの中や、ミーティングで職員の意見を聞いている。又、人前で言いにくい話などを言いやすくなるように配慮している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>法人で研修事業をしているので、比較的人材が揃えられ、利用者に影響しない様な勤務体制を組み、必要な時間帯に職員を確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者が管理者を信頼しているため、管理者が職員の仕事に対する悩みなどの相談にのり、離職、異動を、最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの自発的な希望に添って、研修に参加できるようになっている。必要な研修については、本部から参加の要請があり、勉強の機会を与えられている。パートの方にも年一回以上の研修への参加の機会が設けられており、スキルアップにつながるようしている。内部研修も充実している。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加していて、グループホーム間での交換研修や、「横須賀認知症研究会」の勉強会グループへの参加をしている。他事業者とも協力してサービス向上に努めている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	5ユニットの運営を行っている事業体なので、管理者、責任者との意見交換を常勤会議や食事会などで行なっている。個々に起きる問題を個別に援助し、軽減する工夫をしている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	管理者が職員の一人一人の能力を見極め、職員に対する対処方法を工夫している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至る前に見学してもらい、管理者とリーダーにて訪問。本人が困っている事、不安や希望などを良く聞いて、安心して入居できるよう本人及び家族と話し合いをしている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず見学してもらい、安心感が持てるよう家族などが困っていること、不安や希望などをゆっくり時間をかけて、受容に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望があった時に、本人、家族と話し、好きな事や、出来る事を見極め、対応に努めている。また、必要としている支援を受けられるように配慮している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は認知症の人達なので、マナーやトラブルの配慮が足りなくなっている。職員は他の利用者とのパイプ役に専念し、本人が安心してサービスが利用でき、生活に溶け込めるような雰囲気作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の生活歴などから、さまざまな人生があり、職員は入居者と共に一日を過ごす中で、喜怒哀楽を共有している。又、学ぶ事も多く、支えあっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に小さな気付きでも蜜に連携を取り合い、本人を支えていく関係作りを行っている。個人面談、定期的に家族会を行い良い関係となっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常的に家族との連絡を密にしているので、ケアプランの共有化、又は家族会などの個人面談とで良い関係になっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのもの、家具など持ってきていただき、知人との面会は自由にして、グループホームでの生活に安心感を持っていただいている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の性格を理解し、その方にあった利用者同士の関係を考え、よりよい関係が築けるよう、支援させていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退院後、入院されていてもお見舞いに行っている。他界されても新盆の時など、お線香をあげに出向いている。退居後も家族会の顧問となっている方もいて、関係が続いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の嗜好を参考にして、なるべく希望、願いを聞くケアをしている。困難時は、カンファレンスを開き検討し、ご本人の意志を尊重するようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握している。馴染みの家具や、食器を持参していただいている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタル測定を行い、健康状態の確認をしている。日々のミーティングを行なう事で、状態を把握できるよう努めている。又送りノートで、情報交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回、担当者会議を行ない検討している。その都度、変わりがあった場合は、ケアプランを見直し、変更している。家族にもケアプランの確認をしていただいている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画が高すぎたり、そぐわなくなったりしていると気付いたら、必要に応じて、計画を見直し作成している。家族にもその都度伝え、話し合いの場をもうけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで気付いた事を話し合い、ケース記録に落としている。毎月常勤会議と各フロアーによるカンファレンスにより、職員が情報を共有し、介護計画の見直しや、実践に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他施設の行事やアクティビティに参加し、本人、家族の意志をなるべく尊重してケアを行っている。他部署との連携をとり、柔軟な支援ができるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月の避難訓練と年に一回以上、消防署を交えての避難訓練を実施している。折り紙ボランティアやウィズデイサービスによる手芸などの創作活動を地域の方と協力し支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議への参加や、市内のグループホーム間での交流研修を実施し、情報交換を行っている。入居者同士の交流も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や、衣笠第二地区地域包括支援センターも参加していただき、情報交換をしている。権利擁護については、行政書士との学習会をしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけの病院にて診療を受けている。月一回、又は二週間に一回の往診をしていただいている。薬の変更があった場合は家族に連絡を取り、希望をとっている。産業医もいるので適切な医療を受けられるようになっている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月二回、メンタルの先生が往診に来ている。その際に相談している。又24時間連絡の取れる環境も整っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が午前9時～午後2時まで勤務している。日常の健康管理をし、医療活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には家族と連絡をとり情報をもらっている。また直接お見舞いに行き様子を記録している。病院との情報交換をし、今後の対応を相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、又は終末期を迎えた時には、Dr、家族、グループホームで話し合い、方針を共有している。又、家族会で終末期にはどのようにしていくかを話し合っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「出来る事、出来ない事」を見極め、看護師、医師との連携をとり今後の変化に備え、取り組めるよう重度化、終末期に対するケアを研修を通じ勉強している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの生活、日常の流れが変化しないよう、家族と共に話し合い情報交換をし、本人にダメージの無いよう勤めている。現在までに、何例かそのようなことがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の人格を尊重し、尊厳を損ねる様な言葉掛け、対応は行なっていない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人に合わせた声かけをし、自己決定が出来るような対応をしている。、一人一人の本人の思いが伝えられるような雰囲気作りを心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の意志を尊重し、一人一人のペースを大切にしながら希望に答えられるよう対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>起床時、身だしなみに注意し対応をしている。又月一回程、美容師さんが、カットに出向いてくれている。その場に合ったその人らしいおしゃれができるよう心掛けている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を楽しむために一緒に食事作りをして、今までの生活の知恵を出し、力を活かすことで、楽しい食事づくりをしている。また一緒に片付けをすることで、家庭的でよい雰囲気となっている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、タバコは禁止ではないが今は、たしなむ人はいない。入居時に、嗜好調査を行い、好みの食べ物などを把握する。また随時希望があれば、家族、Dr等と相談し本人の好むものを出ししている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の力や排泄のパターンを把握する事で、尿意、便意をキャッチし、速やかにトイレ誘導してなるべく日中はオムツは外している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたいと訴えがある場合は随時入っていただいている。基本的には、二日おきの入浴である。		入省される前など、入浴を希望された時に、対応が出来たら良いと思っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息したい時に休んでいただいているが、昼夜逆転しない様に、注意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野のものを、活かして生活できるようなケアに取り組んでいる。毎日気晴らしに散歩に出る、好きな場所で音楽鑑賞をする等毎日のストレスを溜めないように気晴らしできるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週一回、さくらの家三番館にある「喫茶店さくらんぼ」に行き、自分で好きなものを頼み、お金を払っていただいている。週一回、スーパーへのお買物ツアーも実施しており、出来る範囲でのお金の所持をしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせ、ドライブに行ったり、散歩に出たり、希望に添って対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春夏秋冬外出行事を実行している。そのうちの、年に一回は、一泊旅行も行っている。希望があった場合、個別対応にて外食やお茶を飲みに行っている。又、他部署の外出、外泊行事への参加希望をとり、機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと訴えがあった時、その都度、職員がコンタクトを取り、電話で会話していただいている。お正月には年賀状を送っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも自由であり、いつでも訪問できるような雰囲気である。又、家族が宿泊したい場合は、家族に泊まっていただけるよう宿泊できる準備も出来ている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉の拘束も行わないケアをしている。又拘束しない意識を持つよう、会議等で研修報告をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵かけをせず、いつでもオープンである。鍵を掛けることの弊害を職員が理解し、日中は鍵を掛けていない、居室にも掛けていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを配慮しながら、常に居場所を確認している。毎日の精神的、身体的な様子を、把握しケースに残し、安全に過ごせるよう配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	高額なものは、決められた場所に保管し、管理している。その他は一人一人の状態に合わせ、保管、管理をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	急変時の対応、防火管理に対する知識を研修等で学び、全職員に周知している。又事故防止については、一人一人の状態を把握し、その方に合った事故防止対策を話し合い、取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、Dr、看護師の指導の下、適切な処置を行っている。職員の研修では、初期対応の研修、マニュアルの再確認等を全職員が行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、災害時に備えている。又火災訓練は、地域の方にも参加していただき、災害時には協力してもらえるように働きかけている。訓練は消防署の協力を得て実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについて家族に状況を説明し、一人一人の状況に合わせた支援をしている。又カンファレンスなどで話し合い、拘束のないケアを実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行なう事で、健康状態の把握に努めている。変化があった場合は、主治医に連絡し指示をいただき、その後の経過を随時報告し、対応に当たっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、効能が分かるよう、一覧表を作成し、職員全員が、理解するよう心掛けている。又、薬の管理、服薬に関しても、注意し確認を行っている。症状については、経過観察し変化を見逃さないよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩、体操などで運動不足の解消に努めている。食生活では、食物繊維をとる、水分補給などにより、自然排便できる様子を心がけている。又、排便コントロールが困難な場合はDrと連絡を取り、下剤の調整をし排便促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯は入床時に洗剤にて消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、管理栄養士が栄養計算したメニューを、提供している。水分は、おやつ時、毎食時、入浴後、訴えのあったときなど、一人一人の様子、状況を捕らえて、水分補給している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を全員が受けており、外出後の手洗いや、うがいを行なっている。又、感染予防の研修に職員が参加し、全職員にフロアー会議にて発表し周知している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾類は、調理や食事の片付けごとに交換、漂白している。食器、調理器具については、その調理が終わったら熱湯消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、ベランダに花を植え家庭的な雰囲気作りを行っている。また家族、近隣から苗木の提供なども受けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口から廊下などに、行事の写真や、工作の花、生花などを飾ったりし、季節感の味わえる暖かい雰囲気を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ、長椅子を置き会話の場を作っている。又屋上においてもベンチを置き、外気浴などをしながら、交流できるスペースをもうけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子、テーブル、クッション、座椅子など居室でゆったりくつろげるよう、使い慣れたものを使用している。又、家族の写真。お花等飾られている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	まめに換気を行っている。温度調節も本人の体調に合わせて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるよう、常に配慮している。自立した生活が送れるよう、洗濯干しでは、本人の身長に合わせるなどの工夫をし、安全に家事の手伝いができる様にしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの力を把握し、本人の力が発揮できるよう、環境を整え自立して暮らせるよう工夫している。お手伝いをお願いし、自信につなげるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関廻りに、花を植えたり、季節感のある空間作りをしている。屋上では季節の野菜を作り楽しめる場となっている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

衣笠公園の周りで、散歩しやすい環境にあり、太陽、風、緑に当たり、春夏秋冬を感じていただくケアに取り組んでいる。毎週ショッピングツアーの定期便を出して、レストランでの外食や毎日の散歩など、五感を大切にされた支援に力をいれている。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人心の会グループホームさくらの家二番館
(ユニット名)	二番館3階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市小矢部4 - 15 - 8
記入者名 (管理者)	畠 美佐子
記入日	平成 19 年 10 月 22 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員が、理念カードを携帯している。又、ホームの運営理念を重要事項説明書に明記している。今後もホームの理念を基に地域密着型サービスに取り組んでいきたい。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は運営理念をミーティングや日々のケアの中で職員に伝えている。理念カードを携帯している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関の壁など、ホーム内の数箇所に運営理念を掲示している。また、広報誌を定期的に発行し、地域、施設、ボランティア団体、学校などに配布している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の人達が気軽にきて頂ける様に行事への参加を呼びかけている。季節の行事では、桜餅、柏餅を配るなど、近隣の方と交流を図っている。又、中、高校生の生徒が体験学習にきている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入っており、自治会の清掃活動に参加している。ホームで行っている避難訓練などには、地域の人達にも参加してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	デイサービスとグループホーム両方の行事などを、会報等で近隣にお知らせして、参加していただいている。又、浴室、喫茶室を開放してコミュニケーションの場にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員へ自己評価の意義を説明し、職員全員で、自己評価を行い、外部評価を受ける事によって、普段気が付かない事や、現状の理解の把握に努め、改善に繋げるようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、それぞれの事業所を訪問し、そこで職員と行政、包括、民生委員、グループホーム間で情報交換や、事例検討など現地研修を行い、一般の人にグループホームを知って頂いたり、サービスの向上にいかしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当グループホームの運営部長は、横須賀市グループホームの連絡協議会の顧問をしており、一番館の管理者は、役員をしているので、横須賀市長寿社会課との関係はとれている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、フローア会議の中で、研修報告をして、資料配布を義務付けている。また、行政書司を招き、権利擁護や成年後見制度の学習をして、知識の共有・向上に努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は採用時に、入居に対する虐待を行わないように誓約している。研修に参加した職員は、報告を義務付けられており、その報告に基づいて、会議の場で検討を行っている。法人本部からの通達などでも虐待防止に努めている。又、目に見えない所での虐待などが、起きていないか気配りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書などを読み上げ質問に対し適確な返答をし、納得して頂いている。解約する際も同じである。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談苦情窓口は、重要事項説明書に明示している。玄関ホールの入り口「苦情受付窓口のお知らせ」が掲示されている。その他、家族会では、家族会代表が、「何かある時はご相談下さい」と呼びかけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「生活状況のお知らせ」を月1回家族に送付して、日々の様子、活動内容、健康状態を知らせている。預かり金は出納帳にて管理しており、毎月お知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付書を整備している。ホーム内で解決できるものについては速やかに対応している。いつでも気軽に意見を言いやすくなっている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常のケアの中や、ミーティングで職員の意見を聞いている。又、人前で言いにくい話などを言いやすくなるように配慮している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>法人で研修事業をしているので、比較的人材が揃えられ、利用者に影響しない様な勤務体制を組み、必要な時間帯に職員を確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者が管理者を信頼しているため、管理者が職員の仕事に対する悩みなどの相談にのり、離職、異動を、最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの自発的な希望に添って、研修に参加できるようになっている。必要な研修については、本部から参加の要請があり、勉強の機会を与えられている。パートの方にも年一回以上の研修への参加の機会が設けられており、スキルアップにつながるようしている。内部研修も充実している。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加していて、グループホーム間での交換研修や、「横須賀認知症研究会」の勉強会グループへの参加をしている。他事業者とも協力してサービス向上に努めている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	5ユニットの運営を行っている事業体なので、管理者、責任者との意見交換を常勤会議や食事会などで行なっている。個々に起きる問題を個別に援助し、軽減する工夫をしている。	
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	管理者が職員の一人一人の能力を見極め、職員に対する対処方法を工夫している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至る前に見学してもらい、管理者とリーダーにて訪問。本人が困っている事、不安や希望などを良く聞いて、安心して入居できるよう本人及び家族と話し合いをしている。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず見学してもらい、安心感が持てるよう家族などが困っていること、不安や希望などをゆっくり時間をかけて、受容に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望があった時に、本人、家族と話し、好きな事や、出来る事を見極め、対応に努めている。また、必要としている支援を受けられるように配慮している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者は認知症の人達なので、マナーやトラブルの配慮が足りなくなっている。職員は他の利用者とのパイプ役に専念し、本人が安心してサービスが利用でき、生活に溶け込めるような雰囲気作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人の生活歴などから、さまざまな人生があり、職員は入居者と共に一日を過ごす中で、喜怒哀楽を共有している。又、学ぶ事も多く、支えあっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に小さな気付きでも密に連携を取り合い、本人を支えていく関係作りを行っている。個人面談、定期的に家族会を行い良い関係となっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日常的に家族との連絡を密にしているので、ケアプランの共有化、又は家族会などの個人面談とで良い関係になっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのもの、家具など持ってきていただき、知人との面会は自由にして、グループホームでの生活に安心感を持っていただいている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個人の性格を理解し、その方にあった利用者同士の関係を考え、より良い関係が築けるよう、支援させていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退院後、入院されていてもお見舞いに行っている。他界されても新盆の時など、お線香をあげに出向いている。退居後も家族会の顧問となっている方もいて、関係が続いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の嗜好を参考にして、なるべく希望、願いを聞くケアをしている。困難時は、カンファレンスを開き検討し、ご本人の意志を尊重するようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握している。馴染みの家具や、食器を持参していただいている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタル測定を行い、健康状態の確認をしている。日々のミーティングを行なう事で、状態を把握できるよう努めている。又送りノートで、情報交換をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回、担当者会議を行ない検討している。その都度、変わりがあった場合は、ケアプランを見直し、変更している。家族にもケアプランの確認をしていただいている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画が高すぎたり、そぐわなくなったりしていると気付いたら、必要に応じて、計画を見直し作成している。家族にもその都度伝え、話し合いの場をもうけている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで気付いた事を話し合い、ケース記録に落としている。毎月常勤会議と各フロアーによるカンファレンスにより、職員が情報を共有し、介護計画の見直しや、実践に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他施設の行事やアクティビティに参加し、本人、家族の意志をなるべく尊重してケアを行っている。他部署との連携をとり、柔軟な支援ができるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月の避難訓練と年に一回以上、消防署を交えての避難訓練を実施している。折り紙ボランティアやウィズデイサービスによる手芸などの創作活動を地域の方と協力し支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議への参加や、市内のグループホーム間での交流研修を実施し、情報交換を行っている。入居者同士の交流も行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や、衣笠第二地区地域包括支援センターも参加していただき、情報交換をしている。権利擁護については、行政書士との学習会をしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけの病院にて診療を受けている。月一回、又は二週間に一回の往診をしていただいている。薬の変更があった場合は家族に連絡を取り、希望をとっている。産業医もいるので適切な医療を受けられるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月二回、メンタルの先生が往診に来ている。その際に相談している。又24時間連絡の取れる環境も整っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が午前9時～午後2時まで勤務している。日常の健康管理をし、医療活用の支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には家族と連絡をとり情報をもらっている。また直接お見舞いに行き様子を記録している。病院との情報交換をし、今後の対応を相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、又は終末期を迎えた時には、Dr、家族、グループホームで話し合い、方針を共有している。又、家族会で終末期にはどのようにしていくかを話し合っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「出来る事、出来ない事」を見極め、看護師、医師との連携をとり今後の変化に備え、取り組めるよう重度化、終末期に対するケアを研修を通じ勉強している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までの生活、日常の流れが変化しないよう、家族と共に話し合い情報交換をし、本人にダメージの無いよう勤めている。現在までに、何例かそのようなことがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の人格を尊重し、尊厳を損ねる様な言葉掛け、対応は行っていない。	
51	<b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人に合わせた声かけをし、自己決定が出来るような対応をしている。、一人一人の本人の思いが伝えられるような雰囲気作りを心掛けている。	
52	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意志を尊重し、一人一人のペースを大切にしながら希望に答えられるよう対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<b>身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時、身だしなみに注意し対応をしている。又月一回程、美容師さんが、カットに出向いてくれている。その場に合ったその人らしいおしゃれができるよう心掛けている。	
54	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむために一緒に食事作りをして、今までの生活の知恵を出し、力を活かすことで、楽しい食事づくりをしている。また一緒に片付けをすることで、家庭的でよい雰囲気となっている。	
55	<b>本人の嗜好の支援</b> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコは禁止ではないが今は、たしなむ人はいない。入居時に、嗜好調査を行い、好みの食べ物などを把握する。また随時希望があれば、家族、Dr等と相談し本人の好むものを出ししている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の力や排泄のパターンを把握する事で、尿意、便意をキャッチし、速やかにトイレ誘導してなるべく日中はオムツは外している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたいと訴えがある場合は随時入っていただいている。基本的には、二日おきの入浴である。		入省される前など、入浴を希望された時に、対応が出来たら良いと思っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息したい時に休んでいただいているが、昼夜逆転しない様に、注意している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野のものを、活かして生活できるようなケアに取り組んでいる。毎日気晴らしに散歩に出る、好きな場所で音楽鑑賞をする等毎日のストレスを溜めないように気晴らしできるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週一回、さくらの家三番館にある「喫茶店さくらんぼ」に行き、自分で好きなものを頼み、お金を払っていただいている。週一回、スーパーへのお買物ツアーも実施しており、出来る範囲でのお金の所持をしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせて、ドライブに行ったり、散歩に出たり、希望に添って対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春夏秋冬外出行事を実行している。そのうちの、年に一回は、一泊旅行も行っている。希望があった場合、個別対応にて外食やお茶を飲みに行っている。又、他部署の外出、外泊行事への参加希望をとり、機会を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいと訴えがあった時、その都度、職員がコンタクトを取り、電話で会話していただいている。お正月には年賀状を送っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでも自由であり、いつでも訪問できるような雰囲気である。又、家族が宿泊したい場合は、家族に泊まっていたり、家族が泊まる準備も出来ている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉の拘束も行わないケアをしている。又拘束しない意識を持つよう、会議等で研修報告をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵かけをせず、いつでもオープンである。鍵を掛けることの弊害を職員が理解し、日中は鍵を掛けていない、居室にも掛けていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーを配慮しながら、常に居場所を確認している。毎日の精神的、身体的な様子を、把握しケースに残し、安全に過ごせるよう配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	高額なものは、決められた場所に保管し、管理している。その他は一人一人の状態に合わせ、保管、管理をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	急変時の対応、防火管理に対する知識を研修等で学び、全職員に周知している。又事故防止については、一人一人の状態を把握し、その方に合った事故防止対策を話し合い、取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、Dr、看護師の指導の下、適切な処置を行っている。職員の研修では、初期対応の研修、マニュアルの再確認等を全職員が行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、災害時に備えている。又火災訓練は、地域の方にも参加していただき、災害時には協力してもらえるように働きかけている。訓練は消防署の協力を得て実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクについて家族に状況を説明し、一人一人の状況に合わせた支援をしている。又カンファレンスなどで話し合い、拘束のないケアを実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行なう事で、健康状態の把握に努めている。変化があった場合は、主治医に連絡し指示をいただき、その後の経過を随時報告し、対応に当たっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、効能が分かるよう、一覧表を作成し、職員全員が、理解するよう心掛けている。又、薬の管理、服薬に関しても、注意し確認を行っている。症状については、経過観察し変化を見逃さないよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩、体操などで運動不足の解消に努めている。食生活では、食物繊維をとる、水分補給などにより、自然排便できる様子を心がけている。又、排便コントロールが困難な場合はDrと連絡を取り、下剤の調整をし排便促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯は入床時に洗淨剤にて消毒している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、管理栄養士が栄養計算したメニューを、提供している。水分は、おやつ時、毎食時、入浴後、訴えのあったときなど、一人一人の様子、状況を捕らえて、水分補給している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種を全員が受けており、外出後の手洗いや、うがいを行なっている。又、感染予防の研修に職員が参加し、全職員にフロアー会議にて発表し周知している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾類は、調理や食事の片付けごとに交換、漂白している。食器、調理器具については、その調理が終わったら熱湯消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、ベランダに花を植え家庭的な雰囲気作りを行っている。また家族、近隣から苗木の提供なども受けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口から廊下などに、行事の写真や、工作の花、生花などを飾ったりし、季節感の味わえる暖かい雰囲気を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファ、長椅子を置き会話の場を作っている。又屋上においてもベンチを置き、外気浴などをしながら、交流できるスペースをもうけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子、テーブル、クッション、座椅子など居室でゆったりくつろげるよう、使い慣れたものを使用している。又、家族の写真。お花等飾られている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	まめに換気を行っている。温度調節も本人の体調に合わせて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるよう、常に配慮している。自立した生活が送れるよう、洗濯干しでは、本人の身長に合わせるなどの工夫をし、安全に家事の手伝いができる様にしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの力を把握し、本人の力が発揮できるよう、環境を整え自立して暮らせるよう工夫している。お手伝いをお願いし、自信につなげるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関廻りに、花を植えたり、季節感のある空間作りをしている。屋上では季節の野菜を作り楽しめる場となっている。		



サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

衣笠公園の周りで、散歩しやすい環境にあり、太陽、風、緑に当たり、春夏秋冬を感じていただくケアに取り組んでいる。毎週ショッピングツアーの定期便を出して、レストランでの外食や毎日の散歩など、五感を大切にされた支援に力をいれている。